

分野7 快適に暮らし活動できるコンパクトなまち「ながの」(都市整備分野)

政策1 いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進

施策1 地域の特性に応じた都市機能の充実 …施策番号 50

施策2 暮らしを支える生活機能の維持 …施策番号 51

施策3 多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進 …施策番号 52

施策4 地域の特色を活かした景観の形成 …施策番号 53

政策2 拠点をつなぐネットワークの充実

施策1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築 …施策番号 54

施策2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備 …施策番号 55

1 施策の概要

分野横断
テーマ①
まち

施策番号	50 (7-1-1)		
分野	都市整備分野	担当部局	都市整備部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	都市計画課
施策	地域の特性に応じた都市機能の充実		
施策の 目指す状態	中心市街地や鉄道駅周辺など都市拠点となるべき地域における人口密度が維持され、市民生活へのサービスの提供可能な都市機能が集約し、居心地の良い空間が形成されている。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段	
	1 貧困 1.1 貧困削減 1.2 貧困削減 1.3 貧困削減	2 飢餓 2.1 飢餓削減 2.2 飢餓削減 2.3 飢餓削減	3 保健 3.1 保健 3.2 保健 3.3 保健	4 教育 4.1 教育 4.2 教育 4.3 教育	5 ジェンダー 5.1 ジェンダー 5.2 ジェンダー 5.3 ジェンダー	10 不平等 10.1 不平等 10.2 不平等 10.3 不平等	16 平和 16.1 平和 16.2 平和 16.3 平和	6 水・衛生 6.1 水・衛生 6.2 水・衛生 6.3 水・衛生	7 エネルギー 7.1 エネルギー 7.2 エネルギー 7.3 エネルギー	13 気候変動 13.1 気候変動 13.2 気候変動 13.3 気候変動	14 海洋資源 14.1 海洋資源 14.2 海洋資源 14.3 海洋資源	15 陸上資源 15.1 陸上資源 15.2 陸上資源 15.3 陸上資源	8 経済成長と雇用 8.1 経済成長と雇用 8.2 経済成長と雇用 8.3 経済成長と雇用	9 イノベーション 9.1 イノベーション 9.2 イノベーション 9.3 イノベーション	11 持続可能な都市 11.1 持続可能な都市 11.2 持続可能な都市 11.3 持続可能な都市	12 生産と消費 12.1 生産と消費 12.2 生産と消費 12.3 生産と消費	17 実施手段 17.1 実施手段 17.2 実施手段 17.3 実施手段	
主要な目的に該当するゴール							○						○		○	○		○

2 指標の推移等

内 容			単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
					R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	中心市街地や鉄道駅(旧松代駅を含む)周辺は、総合的に見ると買い物、医療機関、金融機関、福祉施設などが集まり、利便性が高い地域である	%	(R3) 50.4	47.4	43.4	44.5			↗
	R 6 年度実績値の理由	中心市街地に「魅力ある商業施設が少ない」や「駐車場の不足・料金の負担感」の声が寄せられているが、「利便性が高い」などの肯定的な意見もあるため、若干の増加傾向にある。								
	回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(R3) -	-	-	-	-	-	—
	R 6 年度実績値の理由									
統計指標	人口密度	居住誘導区域の人口密度	人/ha	(R2) 50.6	50.2	49.9	49.5			50.1
	R 6 年度実績値の理由	都市計画課	市域人口の減少に伴い、居住誘導区域人口密度も緩やかに減少している。							
	人口割合	居住誘導区域の人口割合	%	(R2) 75.8	76.4	76.6	76.7			76.0
	R 6 年度実績値の理由	都市計画課	市域人口の減少に比べて、居住誘導区域内人口の減少は緩やかであることから、人口割合は維持されている。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	都市計画マスタープランの基本方針である集約型都市構造に対応する土地利用の実現のため、令和4年9月に長野市立地適正化計画の改定をおこなった。 都市再生特別措置法に基づき、一定の区域に人口や都市機能を誘導していくため、居住誘導区域外での開発行為や建築行為について事前の届出を徹底させた。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
集約型のまちづくりを進めるには、計画的な規制・誘導が必要である。特に近年は人口減少とともに、都市全体が低密度化している問題に加え、自然災害への対応など防災まちづくりの推進の観点から総合的な対策が必要である。	快適に暮らし活動できるまちづくりに際しては、都市機能の集約施策を推進すると共に、近年、頻発・激甚化する自然災害に対応するため「災害に強いまちづくり」の観点を加えた総合的な対策が必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
都市計画マスタープランに基づき個別具体的な都市計画を誘導し、中心市街地や鉄道駅周辺などについては低・未利用地の有効活用を図るほか、都市拠点としての機能を高めて集約型のまちづくりを進めるために立地適正化計画に関連する支援策、取り組み状況などについてパンフレット等で情報提供することで周知を図る。 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に即した都市づくりの実現に向け、区域区分の見直し作業等を引き続き検討し、関係機関と調整及び協議を進めていく。	

1 施策の概要



施策番号	51 (7-1-2)		
分野	都市整備分野	担当部局	建設部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	道路課
施策	暮らしを支える生活機能の維持		
施策の 目指す状態	市民の暮らしを支える都市基盤や日常生活に必要な機能が維持されている。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○	○						○	○		○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)	
				R4	R5	R6	R7	R8		
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	日常生活に必要なインフラが整備されている	%	(R3) 56.3	54.7	53.1	53.1			↗
	R 6 年度実績値の理由	変動はないものの、現状のインフラで不満は少ない一方、公共交通の利便性が低下しているという意見が目立っている。								
	回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(R3) -	-	-	-	-	-	—
	R 6 年度実績値の理由									
統計指標	上水道管路の耐震化率	上水道管路総延長に占める老朽管更新などにより耐震化された管路延長の割合	%	(R2) 15.2	16.2	16.4	16.8			17.7
	R 6 年度実績値の理由	水道整備課	老朽管解消事業などで耐震管を9,279m布設したことによる。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	生活道路、上下水道など生活を支える都市基盤について、計画的に整備、改修、更新を実施した。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGs の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
生活道路、上下水道や情報通信網など生活を支える都市基盤を将来にわたって健全な状況を維持していくため、計画的に改修、更新を実施していく必要がある。過疎化が進む中山間地においては、施設の複合化などの取組を進める。	都市基盤の強化に際しては、社会や環境の側面にも配慮し、持続可能な、社会・環境・経済の統合的なインフラ整備とすることが必要。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
インフラ施設を持続的に健全に保つためには、将来的に維持費の増大が見込まれるため、計画的なメンテナンスの実施や新技術の導入など、財政負担の軽減、平準化を図る必要がある。	

1 施策の概要

施策番号	52 (7-1-3)	分野横断 テーマ① まち	分野横断 テーマ② ひと
分野	都市整備分野	担当部局	建設部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	建築指導課
施策	多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進		
施策の 目指す状態	だれもが気軽にまちなかを移動でき、地域の魅力を活かした暮らしやすい住環境が整っている。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール						○	○					○			○		○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	市内の道路、建物のバリアフリー化が進んでいる	%	(R3) 31.4	30.4	30.6	28.5		↑
	R 6 年度実績値の理由	市有施設についてはユニバーサルデザイン・バリアフリー整備を実施し、民間建築物については指導及び助言を行った。すべての人にやさしいユニバーサルデザインを取り入れた道路の整備を図った							
	回答者自身の実践状況①	(設定なし)	-	(R3) -	-	-	-	-	-
統計指標	R 6 年度実績値の理由								
	道路施設における歩行空間の整備	①1.5m以上の歩道総延長 ②点字ブロックの総延長 ③歩車道の段差解消箇所数	①km ②km ③箇所	(R2) ① 296.8 ② 89.8 ③ 391	① 297.7 ② 90.2 ③ 403	① 298.0 ② 90.9 ③ 404	① 302.8 ② 90.9 ③ 411		① 303.0 ② 93.0 ③ 420
	R 6 年度実績値の理由	道路課	安茂里地区の段差解消を重点的に実施した。						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	- 民間の高齢者、障害者等が利用する建築物や、多くの人が利用する建築物については、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）、長野県福祉のまちづくり条例及び長野市福祉環境整備指導要綱に基づく整備基準を満たすように指導及び助言を行い、市有施設においては新築時及び長寿命化改修工事等に併せてユニバーサルデザイン・バリアフリー整備を実施した。 - 障がい者や高齢者など、すべての人にやさしいユニバーサルデザインを取り入れた道路の整備については、道路交差部における歩車道の段差解消、視覚障がい者誘導用の点字ブロックを設置することで、安全な歩行空間の整備を図った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
- 高齢者、障害者等の人々が安全で快適に暮らせるよう、建築物のバリアフリー化が図られている社会を目指す。 - 誰もが気軽に安心してまちなかを移動できる歩行空間を整備する。	- 高齢者、障害者等が自立した日常生活及び社会生活を送れるよう又社会生活から取り残されることがないよう、建築物のバリアフリー化の促進に努める必要がある。 - 持続可能な都市及び居住環境を実現するために、誰もが気軽に移動できる歩行空間の整備路環境の整備が必要である。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
- 民間の建築物については、引き続き、関係法令に基づく適正な整備に向けた指導及び助言を行うとともに、公共の建築物については、高齢者や障害者を含むすべての人々が、円滑に利用できるよう、人にやさしい建築物の整備を図る。 - 歩車道の段差解消については、中心市街地の整備がほぼ完了したことから、郊外の住宅地等、歩行者が多い箇所を優先整備する。点字ブロックや歩道整備については、関係団体の意見や通学路としての利用状況などを踏まえた箇所を選定するとともに、道路改良に合わせた整備にも積極的に取り組む。	

1 施策の概要

施策番号	53 (7-1-4)	分野横断 テーマ① まち	
分野	都市整備分野	担当部局	都市整備部
政策	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	担当課	まちづくり課
施策	地域の特色を活かした景観の形成		
施策の 目指す状態	豊かな自然環境と調和した景観や、地域固有の歴史・文化が感じられる景観が形成されている。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール							○					○			○		○

2 指標の推移等

内 容			単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
					R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	景観やまちなみが美しい地域である	%	(R3) 59.6	62.4	57.3	59.0			→
	R 6 年度実績値の理由	景観やまちなみに関して、地域の活動や市の施策が行われており、美しい地域と感じる意識は一定の評価である。								
	回答者自身の実践状況①	家のまわりの緑化や美化など、美しい景観づくりを心がけている	%	(R3) 71.9	71.7	71.0	69.6			→
	R 6 年度実績値の理由	市民一人ひとりの美しい景観づくりへの意識が高く、その結果が数値に反映している。								
統計指標	道路美装化延長	歴史的風致の維持向上のため、周囲の良好な景観に調和した道路美装化延長	km	(R2) 8.62	9.00	9.15	9.22			9.00
	R 6 年度実績値の理由	まちづくり課	地域の特色を活かした景観形成を計画的に進めるため、戸隠地区において道路美装化 (L=0.07km) を実施した。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	- 戸隠地区において、国の重要伝統的建造物群保存地区である歴史的な町並みの魅力を高めるため、地域住民及び関係機関と協議しながら、道路美装化を進めた。 - 善光寺地区において、地域景観の核となる歴史的風致形成建造物の整備助成に取り組んだ。 - 良好な景観形成の啓発事業として、長野市景観賞に4件、花と緑大賞に11件を選考し顕彰した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGs の視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
- 歴史的建造物保全・活用に向け、所有者の意識の高揚及び環境整備 - 地域住民による主体的な歴史的風致の形成 - 良好な景観を活用した観光振興や地域活性化への結びづけ	- 地域住民の主体的な景観形成活動への参画 - 住民と行政の協働による良好な景観形成や伝統・文化等の継承
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
- 歴史的建造物の所有者に対し、歴史的風致や良好な景観形成の価値や役割を、伝統的な祭礼と紐づけて伝えることで、地域固有の歴史や伝統・文化への理解を深め、保存や活用の促進を図る。 - 歴史的建造物の価値と安全性を確保しながら、保存・活用するための環境整備を行う。 - 道路美装化整備に当たり、地域住民が中心となって回遊性を向上させるルートを選定することで、道路美装化を通じて観光振興や地域活性化につなげ、景観形成に地域住民が主体的に参加できる環境を整える。	

7-2-1

1 施策の概要

施策番号	54 (7-2-1)	分野横断 テーマ① まち	
分野	都市整備分野	担当部局	企画政策部
政策	拠点をつなぐネットワークの充実	担当課	交通政策課
施策	地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築		
施策の 目指す状態	だれもが利用しやすい公共交通が構築され、多くの人々が利用している。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール							○		○	○				○	○		○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている	%	(R3) 34.1	30.9	23.4	25.3		→
	R 6 年度実績値の理由	令和7年3月から現行の地域連携ICカード（KURURU）に東日本旅客鉄道株式会社のSuica機能を追加し、市内バス路線等において利用を開始したとともに、AI オンデマンドバスの導入を市内2地区に拡大したことで市民の関心に若干の変容があったと思われる。							
	回答者自身の実践状況①	通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している	%	(R3) 20.4	20.6	20.7	21.4		→
	R 6 年度実績値の理由	令和7年3月から現行の地域連携ICカード（KURURU）に東日本旅客鉄道株式会社のSuica機能を追加し、市内バス路線等において利用を開始したとともに、AI オンデマンドバスの導入を市内2地区に拡大したことで市民の関心に若干の変容があったと思われる。							
	回答者自身の実践状況②	公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている	%	(R3) 48.7	48.5	49.7	49.2		→
統計指標	R 6 年度実績値の理由	運転手不足によるバス路線の廃止や減便が身近に起こり、また全国各地でも運転手不足の影響が報道されているが、日常的に利用する割合が少なく、市民全体の関心としてあまり影響が生じていない。							
	公共交通利用回数	市民一人当たりのバス・鉄道などの公共交通機関を利用した回数	回/人	(R2) 100.7	115.5	120.9	R7.8 予定		137
	R 6 年度実績値の理由	交通政策課	令和6年度実績値は集計中（令和7年8月以降に集計）						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	・信州新町地区、中条地区で導入したAI オンデマンド交通を、戸隠地区、鬼無里地区に拡大することで交通空白地域を縮小し、利便性の向上に取り組んだ。 ・バスや鉄道利用者の利便性向上のため、東日本旅客鉄道株式会社のSuica機能を備えた地域連携ICカードの利用を令和7年3月1日から開始した。 ・運転手不足によるバス路線の運休や減便を解消するため、運転手確保に対する事業者への支援事業を実施した。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGs の視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
・人口減少やライフスタイルの多様化に伴い、公共交通の利用者が減少している。一方で、移動手段の減少による将来的な不安が増大している。 ・民間路線バス事業者の運転手不足により、市内6路線において令和7年9月末をもってバス路線が廃止される見込みであり、沿線住民の移動手段確保が急務になっている。	地域公共交通は、交通弱者にとって必要な移動手段であり、地域活性化を支える基盤である。また、環境側面からも優れた移動手段であるが、その利用率が高いとは言えない状況であり、更に運転手不足の深刻化によって、地域公共交通網の維持が非常に困難になっている。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
・令和7年9月末に廃止が予定されているバス路線において、その代替交通手段の確保に取り組む。 ・長野市地域公共交通計画に基づき、①公共交通のネットワーク再構築、②運行環境の整備・利便性向上、③啓発・利用促進に取り組む。 ・令和7年度に取り組む事業としては、上記のほかに、AI オンデマンド交通システムのエリアの拡大、地域バス路線の再編、地域連携ICカードの普及、長野駅でのデジタルサイネージ構築運用、バスロケーションシステムの構築等を行う。	

1 施策の概要

施策番号	55 (7-2-2)	分野横断 ① テーマ① まち	
分野	都市整備分野	担当部局	企画政策部
政策	拠点をつなぐネットワークの充実	担当課	交通政策課
施策	拠点をつなぐ交通ネットワークの整備		
施策の 目指す状態	自家用乗用車に過度に頼らず、中心市街地、観光地などの拠点や生活機能の拠点を移動できる交通ネットワークが形成されている。		

※ SDGsとの関連

※ SDGsとの関連	社会							環境					経済				全体
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
																	
主要な目的に該当するゴール							○		○	○				○	○		○

2 指標の推移等

内 容		単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)
				R4	R5	R6	R7	R8	
アンケート指標	環境・体制に関する評価①	〔再掲：公共交通の利用により、市内を移動できる環境が整っている〕	%	(R3) 34.1	30.9	23.4	25.3		→
	R 6 年度実績値の理由	令和 7 年 3 月から現行の地域連携 I C カード (KURURU) に東日本旅客鉄道株式会社の Suica 機能を追加し、市内バス路線等において利用を開始したとともに、A I オンデマンドバスの導入を市内 2 地区に拡大したことで市民の関心に若干の変容があったと思われる。							
	回答者自身の実践状況①	〔再掲：通勤、通学、通院などの移動手段として、公共交通機関を日常的に利用している〕	%	(R3) 20.4	20.6	20.7	21.4		→
	R 6 年度実績値の理由	令和 7 年 3 月から現行の地域連携 I C カード (KURURU) に東日本旅客鉄道株式会社の Suica 機能を追加し、市内バス路線等において利用を開始したとともに、A I オンデマンドバスの導入を市内 2 地区に拡大したことで市民の関心に若干の変容があったと思われる。							
	回答者自身の実践状況②	〔再掲：公共交通を、自らの暮らしや地域を維持するために必要なものであると理解し、支えていこうと心がけている〕	%	(R3) 48.7	48.5	49.7	49.2		→
統計指標	R 6 年度実績値の理由	運転手不足によるバス路線の廃止や減便が身近に起こり、また全国各地でも運転手不足の影響が報道されているが、日常的に利用する割合が少なく、市民全体の関心としてあまり影響が生じていない。							
	公共交通利用回数 (再掲：施策番号 54)	市民一人当たりのバス・鉄道などの公共交通機関を利用した回数	回/人	(R2) 100.7	115.5	120.9	R7.8 予定		137
	R 6 年度実績値の理由	交通政策課	令和 6 年度実績値は集計中 (令和 7 年 8 月以降に集計)						
	自転車通行空間の総延長	自転車道などの総延長	km	(R2) 11.40	17.70	24.70	26.00		32.80
統計指標	R 6 年度実績値の理由	道路課	矢羽根型路面標示の設置及び千曲川新道の一部供用開始によるもの						

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R 6 年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	・自転車通行空間等の整備として、市営自転車駐車場 (中御所駅・朝陽駅) へのサイクルスタンドの設置や、川中島駅自転車駐車場の照明 L E D 化工事を行った。 ・長野市自転車活用推進計画に基づき、三輪幹線等への矢羽根型路面標示の設置など具体的な施策に取り組んだ。また、松代・若穂地区の拠点を結び、地域・観光振興を目的とした自転車道・遊歩道 (千曲川新道) については、地元との合意による優先順位に基づき整備を行い、一部で供用開始した。 ・Maas 等の利用に向けた整備事業として、スマホ等での経路検索が容易になるよう、バス路線等の G T F S データ更新を随時進めている。
---	--

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDG s の視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
・自転車利用促進のため適正な規模の駐輪場及び放置自転車保管場所が必要であるが、特に長野駅周辺ではそのスペース確保が困難な状況にある。 ・駐輪場に長期間放置されている自転車が多数あり、一部の駐輪場では利用に支障をきたしているほか、移送や処分に多額の費用を要している。 ・千曲川新道については、地元との協議により通学路として活用できる箇所を優先的に整備する必要がある。 ・来訪者が公共交通機関を利用しやすい環境整備が十分に整っていない。	・公共交通機関や自転車等の利用を促進し、環境に負荷のかからない交通手段に乗り換える必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）	
・放置自転車を減らし、利用環境を向上させるため、サイクルスタンドの設置や照明ＬＥＤ化、駐輪場施設の長寿命化対策等を進める。 ・千曲川新道については地元協議の上、計画的に自転車道・遊歩道の整備を進める。 ・来訪者の利便性を高めるため、県が進めるバスロケーションシステムの導入に協力するとともに、長野駅でのデジタルサイネージ構築運用やバス待合所の設置等の環境整備を進める。	